

2015年1月18日(日)

映画「ファルージャ」

戦災復興記念館にて上映決定！！

イラクでは何が起きていたのか？

そして日本では？

イラクの都市「ファルージャ」の現実に迫った
ドキュメンタリー映画です。



会場：戦災復興記念館

〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目12番1号

TEL. 022-263-6931 FAX. 022-262-5465

—交通案内—

- タクシーでおいでの方
仙台駅西口から約5分(初乗り運賃)
- 地下鉄でおいでの方
仙台駅から泉中央行きで1分、広瀬通駅で下車。
西4番出口から徒歩10分。
- バスでおいでの方
仙台市営バス、仙台駅西口バスプールのりばから約7分
【東北公済病院・戦災復興記念館前】で下車し、徒歩2分。

- 10番のりば 茂庭台、折立/西花苑行(西道路経由)
- 15番のりば 全路線
- 16番のりば 川内営業所行(広瀬通経由)



伊藤めぐみ監督との感想交流会
同時開催。
2回上映、定員は各50名。
チケットはお早目に。

ファルージャ

イラク戦争 日本人人質事件…そして

出演：高遠菜穂子 今井紀明 監督：伊藤めぐみ

イラク戦争から10年。当時、日本国内でパッシングが吹き荒れた「日本人人質事件」のことを覚えているだろうか？イラク支援のために行った日本人3人。しかし、ファルージャの街で地元の武装グループによって日本政府へ自衛隊撤退を要求するための人質として拘束された。当時、日本政府はアメリカが始めたイラク戦争を支持。「人道復興支援」のためとして、イラクに自衛隊を派遣していた。日本では3人の行為が国に迷惑をかけたとして「自己責任」を問う声があがった。この映画は、はかんにらずも人質となった、高遠菜穂子さん、今井紀明さんの現在の姿を追い、そして未だ戦火の止むことのないイラク、ファルージャの生々しい現実を捉える。



高遠菜穂子さんは、事件後のPTSDを乗り越え再びイラク支援を続けていた。NGOなどの団体に加わるのではなく、一人でイラクに通い支援と調査を行っている。イラクでの先天異常児は戦争以後、今も増え続けているのが実態だ。またファルージャで撮影中にも現政府と、対立する宗派の抗争も発生していた。

一方、人質事件のもう一人、今井紀明さんは、5年の間、対人恐怖症に苦しんだ。現在は、大阪で不登校や、ひきこもり経験のある高校生を支援するNPOの代表をしている。社会から拒否された存在に、昔の自分をみて何かできないかと思ったという。

それぞれにとってあの戦争、あの事件が引き起こした問題は未だ終わっていない。

戦争は白旗をあげたら終わりじゃなくて続いている
サヘル・ローズ(タレント)

あまりに衝撃的で濃い内容だった。圧倒されて、この映画を表現する言葉がうまく見つからない。学生 24才女性

ヒトの生き方を問う「警世」という表現が値するドキュメンタリーに出会って勇気を吹き込まれて心底嬉しく思う 原 一男(映画監督)

ATP若手映画プロジェクト 第一回支援作品

監督：伊藤めぐみ プロデューサー：広瀬涼二

撮影：伊藤寛 大月啓介 大原勢司 編集：伊藤誠 音楽：吉田あさお 音効：早船麻季
デザイン・web製作：小川梨乃 宣伝：カリコフィム 製作・配給：有限会社ホームム
©2013 有限会社ホームム 一般社団法人全日本テレビ番組制作社連盟

先天異常児、国内紛争—まだ戦争が終わっていない国イラク
そしてそれぞれのその後



今のわたしたちにとって戦争は遠いものなのか？

監督はイラク戦争当時、高校生だった伊藤めぐみ。現在、テレビ番組制作会社でADとして働く28歳。10年前初めて社会に対し何かしたいと思い、高校生ながらでもに参加した。人質事件で世間からパッシングが巻き起こったことに関しても違和感を感じ続けていた。

今回、一般社団法人全日本テレビ番組制作社連盟(略称ATP)のATP若手映画プロジェクトにこの企画を応募。見事採用され、本映画が製作されることになった。

上映日時：2015年1月18日(日) ①9時30分～12時30分 ②13時30分～16時30分

①②ともに監督との感想交流(約1時間)含む。上映時間：95分

前売券：1000円(今回の上映会は、高校生以上の方を対象とさせていただきます)

主催：「映画から明日を考える」みやぎ市民の会

お問合せ：090-5201-9333(唐木)メール：asuwokangaeru@yahoo.co.jp